

## 2. 工事中における土地造成・樹木の伐採等に伴う景観への影響

### 1) 予測結果

#### (1) 景観資源・構成要素

景観資源・構成要素に対しては直接的な改変が生じないため、景観の変化等の影響は発生しない。

#### (2) 主要な景観

予測地点からの景観の変化の状況は、表 4-12-5 及び図 4-12-3(1)～(12)に示すとおりである。

表 4-12-5 予測地点からの景観の変化の状況

予測地点	景観の変化の状況
1 霧ヶ峰農場	現況では農地の辺縁部に立ち並ぶカラマツ林の後背地に、樹木に覆われた斜面が垣間見えており、遠景はほぼ緑に覆われている。工事中は、農地の辺縁部の樹林は変化しないものの、後方の斜面の一部が伐採されて裸地が出現するため、人工的な景観へ変化すると予測する。
2 霧ヶ峰・車山肩	現況では、草原と樹林に覆われた緩やかな斜面と谷が後方へ続いている。工事中は、谷状の奥に見える斜面の一部が伐採されて裸地が出現するものの、距離が4km程度あること、水平角が7.5°程度と小さいこと、また南側であり逆光となる時間帯が多いことなどから、景観の変化は小さいものと予測する。
3 中央自動車道諏訪湖サービスエリア	現況では、眼下には諏訪湖と水田や市街地、遠景は霧ヶ峰から諏訪盆地へ下る斜面と、その後方に八ヶ岳連峰が望める。対象事業実施区域は尾根越しの反対側斜面であり、尾根筋の一部が見える程度であること、主要な眺望対象から外れていることから、景観の変化は小さいものと予測する。
4 杖突峠	現況では、諏訪盆地から霧ヶ峰・車山に至る斜面が山地の森林としてまとまっている。工事中は、標高が比較的高い範囲の森林の一部が伐採されて裸地が出現するものの、距離が約10kmあること、主要な眺望対象から外れていることから、景観の変化は小さいものと予測する。
5 守屋山	現況では、諏訪盆地から霧ヶ峰・車山に至る斜面が山地の森林としてまとまっている。工事中は、標高が比較的高い範囲の森林の一部が伐採され、霧ヶ峰の草原の手前に裸地が出現するものの、距離が約11kmあること、水平角が6.3°と小さいことから、景観の変化は小さいものと予測する。
6 高ボッチ山	現況では、諏訪盆地から霧ヶ峰・車山に至る斜面が山地の森林としてまとまっている。工事中は、標高が比較的高い範囲の森林の一部が伐採され、八ヶ岳連峰の手前に裸地が出現するものの、距離が約11kmあること、可視範囲が尾根状の一部分に限られることから、景観の変化は小さいものと予測する。
7 八ヶ岳連峰（赤岳）	現況では、茅野市北大塩地区の集落・農耕地と諏訪湖の間を霧ヶ峰・車山から延びる斜面が緑のまとまりとなっている。工事中は、この森林の標高が比較的高い範囲の一部が伐採され、北アルプスの手前に裸地が出現するものの、距離が約21kmあること、水平角が5.4°と小さいことから、景観の変化は小さいものと予測する。



【現況】



【予測：工事中】

注) 工事中の写真の表現については、現時点でのイメージである。



図 4-12-3(1) 予測地点からの景観の変化の状況  
(1 霧ヶ峰農場・春季)



【現況】



【予測：工事中】

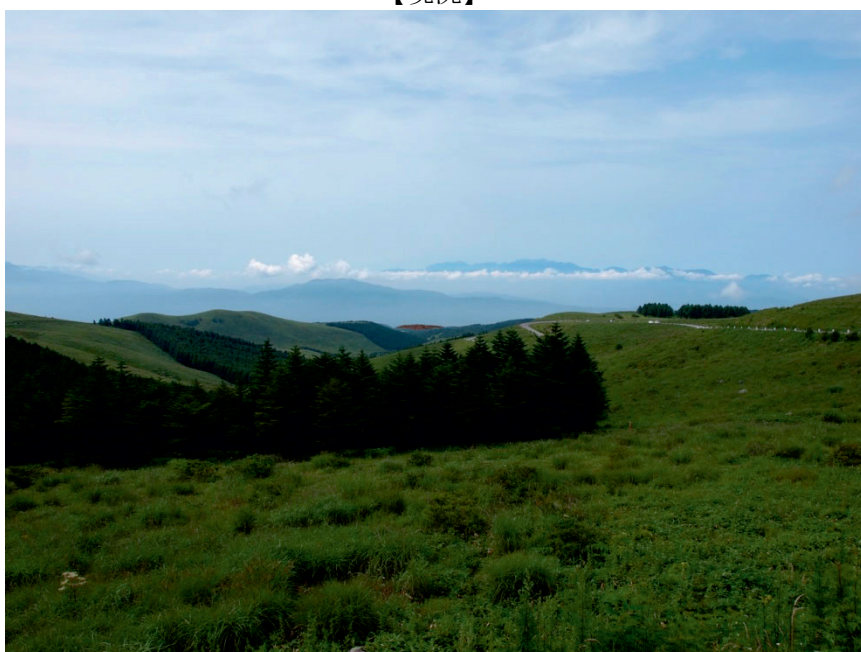
注) 工事中の写真の表現については、現時点でのイメージである。



図 4-12-3(2) 予測地点からの景観の変化の状況  
(1 霧ヶ峰農場・冬季)



【現況】



【予測：工事中】

注) 工事中の写真の表現については、現時点でのイメージである。

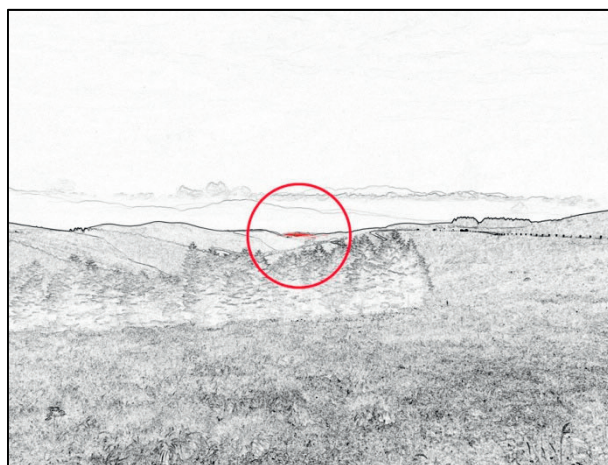


図 4-12-3(3) 予測地点からの景観の変化の状況  
(2 霧ヶ峰・車山肩・夏季)



【現況】



【予測：工事中】

注) 工事中の写真の表現については、現時点でのイメージである。



図 4-12-3(4) 予測地点からの景観の変化の状況  
(2 霧ヶ峰・車山肩・冬季)



【現況】



【予測：工事中】

注) 工事中の写真の表現については、現時点でのイメージである。



図 4-12-3(5) 予測地点からの景観の変化の状況  
(3 中央自動車道諏訪湖サービスエリア・秋季)



【現況】



【予測：工事中】

注) 工事中の写真の表現については、現時点でのイメージである。



図 4-12-3(6) 予測地点からの景観の変化の状況  
(3 中央自動車道諏訪湖サービスエリア・冬季)



【現況】



【予測：工事中】

注) 工事中の写真の表現については、現時点でのイメージである。



図 4-12-3(7) 予測地点からの景観の変化の状況  
(4 杖突峠・秋季)





【現況】



【予測：工事中】

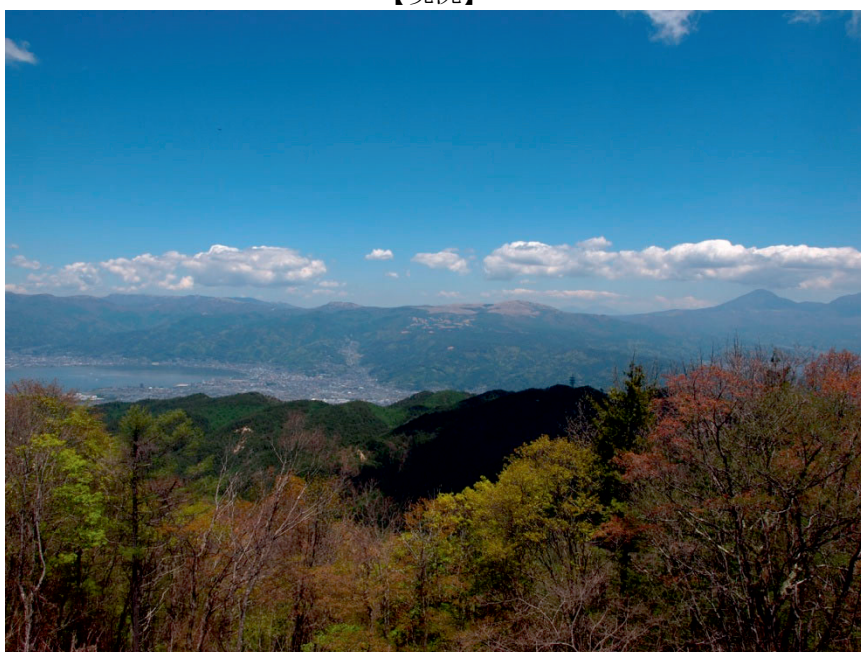
注) 工事中の写真の表現については、現時点でのイメージである。



図 4-12-3(8) 予測地点からの景観の変化の状況  
(4 杖突峠・冬季)



【現況】



【予測：工事中】

注) 工事中の写真の表現については、現時点でのイメージである。



図 4-12-3(9) 予測地点からの景観の変化の状況  
(5 守屋山・春季)



【現況】



【予測：工事中】

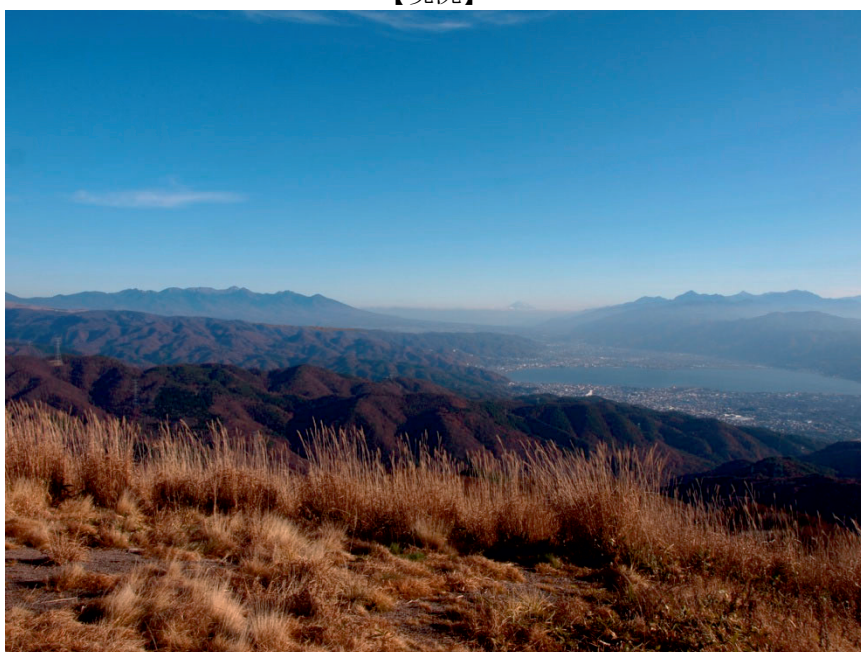
注) 工事中の写真の表現については、現時点でのイメージである。



図 4-12-3(10) 予測地点からの景観の変化の状況  
(5 守屋山・冬季)



【現況】



【予測：工事中】

注) 工事中の写真の表現については、現時点でのイメージである。

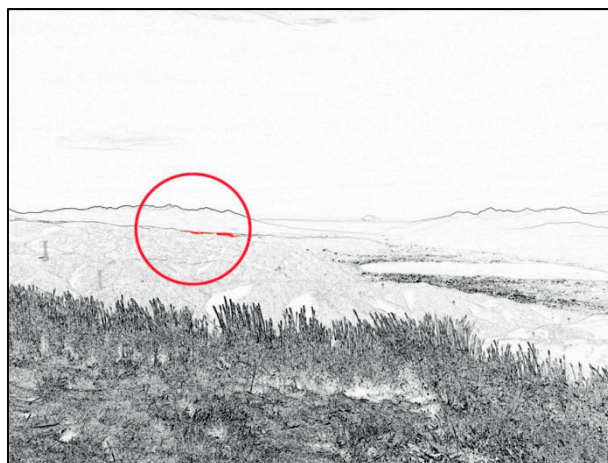


図 4-12-3(11) 予測地点からの景観の変化の状況  
(6 高ポッチ山・秋季)



【現況】



【予測：工事中】

注) 工事中の写真の表現については、現時点でのイメージである。

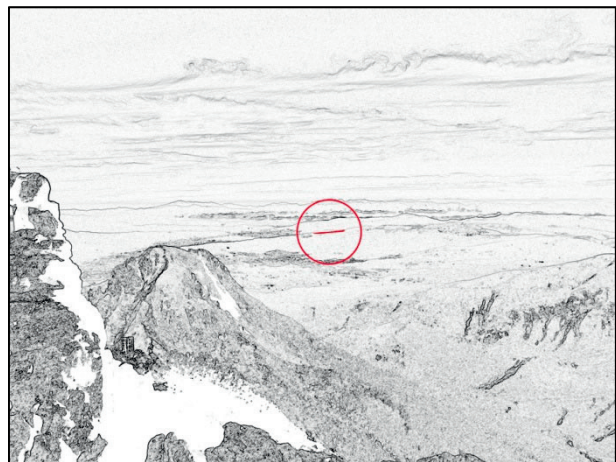


図 4-12-3(12) 予測地点からの景観の変化の状況  
(7 八ヶ岳連峰(赤岳)・秋季)

## 2) 予測結果の信頼性

予測の手法として用いたフォトモンタージュ法は従来から多くの実績のある予測手法であり、一般的には予測の不確実性は小さいと考えられる。また予測に際しては、太陽光パネル配置計画等の事業計画及び地形データ等からの視野範囲解析を行い、フォトモンタージュ作成のためのデータとした。このため、予測結果は環境影響の程度を評価するにあたって十分な信頼性を有していると考えられる。

## 3) 環境保全措置の内容と経緯

土地造成（切土・盛土）、樹木の伐採及び廃材・残土等の発生・処理に伴う景観資源・構成要素及び主要な景観の変化への影響を緩和するためには、工事を実施する時期を対象事業実施区域内で分散させる方法が考えられる。

本事業の実施においては、できる限り環境への影響を緩和させることとし、表 4-12-6 に示す環境保全措置を講じる。

表 4-12-6 環境保全措置（土地造成（切土・盛土）、樹木の伐採及び廃材・残土等の発生）

環境保全措置	環境保全措置の内容	環境保全措置の種類 <sup>注</sup>
土地造成（切土・盛土） 実施時期の分散	土地造成（切土・盛土）の実施時期が集中しないよう、工事時期の分散に努める。	低 減

注) 【環境保全措置の種類】

低 減：継続的な保護又は維持活動を行うこと等により、影響を低減する。

## 4) 評価方法

調査及び予測の結果並びに検討した環境保全措置の内容を踏まえ、以下の観点から評価を行った。

### ① 環境への影響の緩和に係る評価

景観に係る環境への影響が、実行可能な範囲で回避又は低減され、環境保全への配慮が適正になされているかを検討した。

### ② 環境保全のための目標等との整合の観点

表 4-12-7 に示す「諏訪市景観計画」（平成 21 年 10 月策定）の「山林・高原の景観地域」における基本方針及び「茅野市景観計画」（平成 22 年 3 月策定）の景観づくりの基本的な方針を環境保全目標として、その目標との整合が図られているかを検討した。

表 4-12-7 環境保全のための目標  
(土地造成(切土・盛土)、樹木の伐採及び廃材・残土等の発生)

環境保全目標	具体的な数値等
<p>「諏訪市景観計画」 山林・高原の景観地域における景観上の基本方針</p>	<p>【山林・高原】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 高原の貴重な自然環境を保全する           <ul style="list-style-type: none"> <li>・霧ヶ峰高原の豊かな自然(国定公園や天然記念物に指定された貴重な自然資源)の保全</li> <li>・野生生物の生息環境の適正な保護と保全</li> </ul> </li> <li>● 遠景を構成する東西の山並みを保全する           <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保全、防災上重要な山林の保全</li> <li>・稜線等基本地形の保全、自然植生の保全</li> </ul> </li> <li>・山林に生息する生物の生息環境の保全、生態系機能の向上</li> <li>● 自然を尊重した開発を誘導する(開発等に伴う景観上の配慮)           <ul style="list-style-type: none"> <li>・地形変更の抑制、樹林など開発周辺の自然環境の保全</li> <li>・周辺の自然環境との調和に配慮した建築物、看板・広告物などの工作物の適正な規制、誘導(高原としてまとまりや一体感のある景観の形成)</li> </ul> </li> <li>・眺望や山の稜線を阻害する工作物の撤去や休耕田の改善</li> </ul>
<p>「茅野市景観計画」 景観づくりの基本的な方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 自然環境の保全</li> <li>② 眺望の確保</li> <li>③ 歴史文化景観・環境の保全</li> <li>④ 自然景観、歴史文化景観などと調和した街並みづくり</li> <li>⑤ 主要な道路及び駅における玄関口にふさわしい景観づくり</li> <li>⑥ 景観を阻害する要素の是正</li> <li>⑦ パートナーシップで行う景観づくり</li> </ul>

## 5) 評価結果

### (1) 環境への影響の緩和に係る評価

事業の実施にあたっては、「3) 環境保全措置の内容と経緯」に示したように、事業者としてできる限り環境への影響を緩和するため、「土地造成(切土・盛土)実施時期の分散」の環境保全措置を講じる計画である。

以上のことから、景観に係る環境への影響については、環境への影響の緩和に適合するものと評価する。

### (2) 環境保全のための目標等との整合の観点

対象事業実施区域は、周囲の尾根等に遮られるため、市街地が形成されている平地からはほとんど見えないため、遠景を構成する山並みへの景観上の影響は小さい。また本事業では、太陽光発電パネルの敷設エリアは極力地形の改変を行わず、土地の造成(切土・盛土)を行うのは管理用道路沿い及び盛土区域に限られ、大幅な地形の変更は生じない計画であり、稜線等の基本地形は保全される。

以上のことから、環境保全のための目標との整合は図られているものと評価する。

## 3. 供用時における地形改変・発電施設の存在・緑化等に伴う景観への影響

### 1) 予測結果

#### (1) 景観資源・構成要素

景観資源・構成要素に対しては直接的な改変が生じないため、景観の変化等の影響は発生しない。

#### (2) 主要な景観

予測地点からの景観の変化の状況は、表 4-12-8 及び図 4-12-4(1)～(12)に示すとおりで

ある。

表 4-12-8 予測地点からの景観の変化の状況

予測地点	景観の変化の状況
1 霧ヶ峰農場	現況では農地の辺縁部に立ち並ぶカラマツ林の後背地に、樹木に覆われた斜面が垣間見えており、遠景はほぼ緑に覆われている。供用後は、農地の辺縁部の樹林は変化しないものの、後方の斜面の一部に太陽光パネルが出現するため、人工物が視界に入る景観へ変化すると予測する。
2 霧ヶ峰・車山肩	現況では、草原と樹林に覆われた緩やかな斜面と谷が後方へ続いている。供用後は、谷状の奥に見える斜面の一部に太陽光パネルが出現するものの、距離が4km程度あること、水平角が7.5°程度と小さいこと、また南側であり逆光となる時間帯が多いことなどから、景観の変化は小さいものと予測する。
3 中央自動車道諏訪湖サービスエリア	現況では、眼下には諏訪湖と水田や市街地、遠景は霧ヶ峰から諏訪盆地へ下る斜面と、その後方に八ヶ岳連峰が望める。対象事業実施区域は尾根越しの反対側斜面であり、尾根筋の一部が見える程度であること、主要な眺望対象から外れていることから、景観の変化は小さいものと予測する。
4 杖突峠	現況では、諏訪盆地から霧ヶ峰・車山に至る斜面が山地の森林としてまとまっている。供用後は、標高が比較的高い範囲に太陽光パネルが出現するものの、距離が約10kmあること、主要な眺望対象から外れていることから、景観の変化は小さいものと予測する。
5 守屋山	現況では、諏訪盆地から霧ヶ峰・車山に至る斜面が山地の森林としてまとまっている。供用後は、標高が比較的高い範囲の霧ヶ峰の草原の手前に太陽光パネルが出現するものの、距離が約11kmあること、水平角が6.3°と小さいことから、景観の変化は小さいものと予測する。
6 高ボッチ山	現況では、諏訪盆地から霧ヶ峰・車山に至る斜面が山地の森林としてまとまっている。供用後は、標高が比較的高い範囲の八ヶ岳連峰の手前に太陽光パネルが出現するものの、距離が約11kmあること、可視範囲が尾根状の一部分に限られることから、景観の変化は小さいものと予測する。
7 八ヶ岳連峰（赤岳）	現況では、茅野市北大塩地区の集落・農耕地と諏訪湖の間を霧ヶ峰・車山から延びる斜面が緑のまとまりとなっている。供用後は、この森林の標高が比較的高い範囲の北アルプスの手前に太陽光パネルが出現するものの、距離が約21kmあること、水平角が5.4°と小さいことから、景観の変化は小さいものと予測する。